

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町752-1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

単独のグループホームとは違い、様々な施設を持つ組織の中のグループホームとして、そのメリットを生かし協力が体制が整っています。また毎日明るく楽しく安心して暮らせるように、笑顔と笑い声が弾むホームを心がけています。毎日の日課としてラジオ体操・四肢体操を行い、季節の歌本も多く取り揃えて合唱する習慣としています。毎月、外出イベントとして利用者様全員でドライブを楽しんだり、室内イベントで外部のボランティアさんを招いたりしています。また散歩コースにも恵まれており、天気の良い日はなるべく外気にふれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には、利用者も参加し、自己紹介、ときには歌を歌う機会をつくり、利用者に会議参加の達成感を感じてもらうとともに、他の参加者に利用者の様子を理解していただいている。幼稚園児訪問のお礼に利用者とともに出掛けたり、外の見回りや買い物に利用者を誘ったりして、日常生活における地域の人々との交わり、活躍の場面づくりを行っている。利用者との会話は、信頼関係を築く基本であると考え、できるだけ声をかけ、つぶやきも聞き逃さないようにしたり、発語の意味を職員で話し合って家族に確認したり説明したりして、利用者の思いを大切に支援につなげている。また、言葉だけでなく行動にも注意を払い、むせ込みの原因を探ったり、合唱する形にとらわれず机でリズムをとり、できる力を維持できるようにしたり、ラジオ体操・四肢体操を日課に、下肢筋力低下防止に努めるなど、利用者に向き合った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義・役割を念頭に置いた事業所理念をもとに、地域との関連性を盛り込み、管理者と職員がその理念を共有して実践に繋げている	再確認できるよう、理念を掲示している。理念の文言通り、地域との関係づくり、その人らしい利用者の生活の実現に努めているが、そうした実践が理念をもとに行っていることを、職員が実感し、確認・振り返る機会がない。	職員で理念の意味を話し合い、日々の実践とむすびつけて考えられるよう、職員で共通認識を持つ機会づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するピース佐野でのイベント参加、幼稚園児の訪問とお礼の交流、地域の傾聴ボランティアの方々の訪問による交流、運営推進会議開催により、区長や民生委員・高齢者あんしんセンターを通して地域の方々との交流を図っている	地域の人と交流するなか、幼稚園児の訪問で手作りの作品を頂いたり、収穫祭の果物を頂いたりしており、梨狩りに行った際には、お礼に利用者と一緒に梨を届けている。地域とのつきあいを更に広げていきたい意向であるが、情報源の一つとなる回覧板は、隣接する「ピース佐野」に届くものから得ている状況である。	運営推進会議やそのメンバーとのかわりを強め、地域とのつきあいの広がり、ひいては災害時の応援体制の構築につながる事業所としての基盤づくりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により区長、民生委員、傾聴ボランティアの方々を通して地域の方々と交流が出来るようになっており、ケアピース介護フェアの開催により、高齢者の食事メニューやリハビリの方法などの発信をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、利用者や家族に出席していただき、利用者の状況報告や意見交換を行うと共に、各回ごとにテーマを決めてそれについて話し合い、意見を頂き、時には実技の方法を紹介して今後のサービス向上に活かしている。	利用者も参加して、自己紹介など発言の機会をつくり、利用者が会議に参加している意識を持てるようにしている。会議内容は、報告のほか、前回会議の振り返りを行っている。参加者から意見がいただけるよう働きかけ、そうしたなか、停電時の対応への質問に対しては、具体的な対応方法を説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での、市長寿社会課の担当の方には、全ての取り組みを伝えながら意見を求めて、実践に生かしている。最近では、認定区分変更の手続きで指導を受け協力して頂いた。	市には、直近では認定区分変更の手続きについて意見を求めている。また、あんしんセンターからの紹介者の入居後の報告や、事業所の空き情報を伝えるなど、連携を取りながら運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしています。朝から夜まで一日を通し帰宅願望者が数名いる為です。離苑して怪我や事故にあうことを考え、24時間施錠しています。また職員は年2回開催の身体拘束研修に参加し、言葉による拘束もしないよう取り組んでいる。	年2回法人主催の身体拘束の研修の他、法人の各部署代表者の出席する場で相談ができ、他部署の意見などを求めることができる。外出傾向の利用者が複数おり、外に出ること、1対1で話を聞き気分転換を図るなど、個々の状態に合わせて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回開催の研修会において、高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内での虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修が開催される際には参加し、学ぶ機会を持つよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等がある場合は、個々に十分な説明を行い、家族の不安や疑問点がないか確認し、理解、納得いただけるよう取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来訪時には、利用者も含め話し易い雰囲気作りにも努め、また玄関には苦情受付箱を設け、電話やFAXでも受けられるよう、玄関に案内を掲示している。	面会時や電話で、利用者の様子を伝えながら家族から意見を聞くようにしている。家族の状況にあわせて、メール送信でやりとりを行うなど、意見が出しやすい方法を取り入れている。また、利用者に関する家族からの疑問には、共に考え、利用者の状況や事業所でのケア方針を伝え理解に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議において意見交換や提案を話し合い、日常の申し送り時にも話し合いをし、情報を共有して実践に勤め反映させている。	毎月の定例会議や申し送りでは、日々利用者の状況にあわせた対応を検討するなど、ケアに関する話し合いが主となっている。管理者は、法人の部署会議で運営に関する相談をすることができ、そうしたなか、新人職員からの昼休憩に関する提案について他部署の意見を参考に、改善策につなげた実例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気を配り、勤務し易い環境作りに努めている。社内の健康診断結果を見逃さずに体調管理に注意するように、また超過勤務を減らし、休憩時間を確保するようにと指導されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的に行われている研修や法人外での研修の参加内容について報告書を提出し、参加出来なかった職員用に研修資料を回覧している。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得を目指して勉強するように指導されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加して体験発表をしている。地域の同業者との交流の機会を持って、サービスの質の向上に反映させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話やコミュニケーションを通して困っている事や不安に感じている事、要望や希望をくみ取り傾聴して、信頼関係を築けるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議で意見交換をしたり、家族が来苑した際、希望や不安、要望などないか積極的に声掛けをし、信頼関係を築けるよう努めている。また来苑できない家族には電話を通じてコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の思い、状況等を把握してよく傾聴し、まず1番に必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支え合う関係を大切にしている。人生の先輩であることを尊重し、昔話や生活の知恵など教えてもらい、互いに支え合える関係作りにも努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告したり、相談するとともに、家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来所して頂けるようにと玄関先などに季節の花や飾り付けをして明るい雰囲気作りを心がけている。そして利用者様との関係が途切れる事なく継続されるための対応に努めている。	親族などの面会時には、他の利用者に配慮し、居室で面会がスムーズに行えるようにしている。出身地の民謡を歌うことをきっかけに、馴染みや好きな歌手の歌を披露する場面をつくっている。また、利用者の発する言葉の意味を職員で話し合い、家族に確認するなかで、以前に出かけていた場所とわかり、会話をつなぐ努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関わりが持てるようにテーブルの配置を考え時々席替えをしたりして新たな関わりが持てるように支援している。利用者同士の関わりへの橋渡しができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり、相談や支援に努めている。お会いできた時には声をかけ、最近の様子など伺って支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話のなかから、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている。言葉による表現の難しい方には、毎日の生活の中で、ちょっとした異変の気づきを大切にしてい、見落とさないように努めている。	利用者との会話が信頼関係を築くものと捉えている。全員を前に話すのではなく、一人ひとりに声をかけて、無口でもぼそぼそという言葉聞き逃さず、申し送り等で職員間で情報共有し、把握に努めている。また、言葉以外でも、日頃寄り添い、観察する中で、変化やしぐさなどから把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞き、これまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報の共有を密にし、利用者一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、要望や意見を聞き、現状に即した個別介護計画を作る。状態の変化に応じてその都度本人、家族の意向等を確認しながら現状に即した介護計画を作成している	毎週「ケアプラン実施・評価票」でケアプランの実施状況を確認し、それをもとに毎月「モニタリング実施経過」でモニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しにつなげている。ケアプランの内容と日々の記録の関連付けについては、検討課題としている。	職員がケアプランを意識して、具体的に日々の個別ケア記録に反映できるよう、そして、そうした日々の記録がモニタリングやケアプラン見直しに、連動してつなげられるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と職員間の申し送りノートで日常の様子、ケアの実践・気づき等を職員間で情報を共有している。毎月のカンファレンス以外でも変化が生じた際にはその都度話し合い計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況判断により、通院介助、買い物支援等、必要に応じて柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お向かいにある幼稚園から、定期的に来苑していただいたり、またこちらから訪問するなど、ふれあいを大切にしている。隣接するピース佐野で行われる行事への参加や、傾聴ボランティアとの密な関係により暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期的な廻診も実施していて、医療が必要な時にはその都度臨機応変に対応している。	利用者・家族の意向を聞きながら、協力医の説明を行い、多くが協力医の月2回の往診を受けている。眼科・整形外科などは家族が付き添い受診しているが、家族の負担軽減等を考え、協力医から薬が処方できるよう相談したりしている。また、訪問看護に健康状態を相談したり、薬剤師に薬の飲み合わせの相談をしたりして、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気付きは全職員が共有し、訪問看護師に伝え相談し、家人に報告し適切な受診等が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員とこまめな連絡をとり、情報交換や相談を行って、利用者にとってより良い医療が受けられるよう努めている。また普段から良い関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合いを行い、ホーム内で看取りを希望されるか事前に確認をし、また重度化してしまった際でのホーム内での対応の仕方も相互理解する様になっている	契約時に、看取りなどの事業所の方針を家族に伝え、書面で意向確認をしている。利用者の状態変化に伴い、家族の意向などもその都度確認し、医師や家族と相談しながら、家族の意向に沿った支援をしている。4年前に2～3名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加して、事故発生リスクや対応策を常に学び直し、未然に事故を防ぐようにしている。参加出来なかった職員は参加した職員から学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、消防署立ち合いと自主訓練を含め年3回、昼夜・風水害を想定して避難訓練を行っている。運営推進会議を通して近隣の方々に協力を依頼している	東日本大震災から、避難訓練を年2回から3回にして、隣接の施設と合同の昼火災訓練、風水害訓練、夜間想定火災訓練を実施している。大雨の際の水路の水対策について、自治会長に相談し対応しているが、近隣との協力関係の必要性を感じつつ、どのような広がりを持たせていくか検討課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている。個人情報の取り扱いについても慎重に対応している	トイレ誘導などの声かけの際には、本人に分かるように向き合い、耳元で話しかけたり、パット着用などでケアするときは、悪いと思う心情を配慮して、さりげなく行い、負担感や羞恥心を感じさせないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、行動表現からのサインを読み取り、本人の意志や希望が気兼ねなく言える雰囲気を作り自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせてご本人の意見、希望を尊重し希望に添えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの衣類を選んで頂いたり勧めたりしてお洒落ができるよう支援している。必要なものがあれば家族に依頼して買ったり、ヘアカットと一緒に髪を染めるなど本人の希望に合わせたおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチバイキングや手作りおやつなどで、季節の果物や食材を選び、利用者から好評のメニューを提供して喜んで頂いている。利用者と職員と一緒に準備や片付けなどを行っている。	食事に集中できるようテレビを消し静かな音楽をかけ、職員も共に食事をしている。業者に献立や食材調達を依頼し、固さなどの要望を伝え反映させている。重度化により利用者の手伝い参加が難しくなっているが、おやつづくりや行事食には、できる人に手伝ってもらっている。外食や寿司の出前で食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定をし、栄養士の作成したバランスのとれた食事を提供している。食事や水分の摂取量は記録に残し、一人一人に応じた健康管理を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。毎晩義歯と歯ブラシの除菌洗浄も行っている。口腔ケアの研修会に参加し、学んだことを参考にして取り組んでいる。研修資料は職員全員で回覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し排泄表のチェックをしながら、排泄習慣やパターンを理解・把握した上で、個々に添った支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、定時と共に適時、あるいはしぐさなどから判断し、トイレ誘導し、トイレでの排泄支援している。職員の介助が難しい事例をもとに職員で話し合い、管理者は事務長に相談を行い、トイレでの排泄の大切さを再認識し、職員2人介助で行うことでトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によってバランスのよい食事を摂ってはいるが、便秘はどうしても起こってしまう。水分量を把握し、便秘薬で調整しながら、毎日運動をして腸の働きを助けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングなどを考慮して、入浴を楽しんで頂いている。また、入浴剤や季節湯(ゆず湯)施行し香りや雰囲気等も楽しんで頂けるよう工夫している	最低でも週2回入浴できるよう支援している。入浴剤やゆず湯などで入浴を楽しめる支援のほか、女性の利用者には、髪をドライヤーで乾かして、香りのするヘアクリームをつけてあげ、喜んでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり異なった生活習慣であったことを十分把握したうえで、状況に応じ利用者の希望やペースを考慮しながら、休息や安眠が出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師が事業所に直接訪問し服薬の支援を行う、居宅療養管理指導が開始された。利用者が服用している薬の目的や用法、用量、副作用など正しく服用できているかを確認し、職員との連携を取りながら介護サービスの向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報も取り入れて、利用者一人一人の生活歴を理解し、毎日変化があっても楽しめる様に支援している。四季の変化が伝わるように苑内に飾る花や壁に飾るものを工夫したり、散歩や外出ドライブをしたりして気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に一人一人のその日の希望にそった外出は出来ていない。しかし会話の中から利用者の希望を聞き安全を考慮したうえで散歩などを取り入れている。また、月に一回外出イベントを計画し季節の花見、果実狩り、初詣等利用者が楽しんで生活できるよう支援している	日常的には、付近を散歩したり、屋外に出て外気浴を行ったりして、事業所内に閉じこもることによるストレスがたまらないようにしている。職員が買物などに行く際には、利用者を連れて出かけるようにしている。また、季節に応じ、桜・コスモスの花見、いちご狩りや梨狩りなどを楽しめるように、月1回程度の外出行事を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるような支援はしていない。しかし、本人の希望している買い物などは家族に伝え買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りができる様支援している。またお正月の年賀状は出来るだけ本人の字で書いて頂き、家人へ気持ちが伝わるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品、写真を飾って、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮している。家族の方が面会に来られた際にもゆっくりと安心できるように工夫している	家族の来訪時には面会場所を考えて、他の利用者が不安にならないようにしている。新聞を見る方には新聞をお渡ししたり、歌が歌えなくても歌を聞いてもらえるようホールで過ごせるように声かけしたりして、楽しんでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士で談話したり、ソファーに座ってテレビやビデオを観られるように配慮している。独りでいたい時には自室で休めるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのタンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計、誕生日カード等を好きな様に置いてあり、居心地良く過ごせ、個性のある居室作りを工夫している	馴染みのタンスや椅子などの家具が持ち込まれ、テレビなども配置されている。家族の写真・利用者がつくった塗り絵・職員がつくった誕生日の色紙など、利用者が普段目に触れ、馴染めるように飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全にそして自立した生活が送れる様な配慮を行い、問題があれば職員同士で話し合い、改善し工夫している		